■十歳で大学に入学する

『胎児はみんな天才だ』（祥伝社）といふ書物に依れば、スーザン・スセディック嬢は現在十六歳であるが、シカゴのイリノイ大学の大学院二年生である。大学に入学したのは十歳で、十四歳にはすでに卒業して大学院に入学してゐるのである。知能指数は二〇〇を越えてゐると言はれる。

母親が、胎内のスーザンに常に語りかけてゐた影響に依るものであらうと考へられるが、生後二週間で“ママ”といふ言葉を発したといふ。普通では全く考へられない事であるが、これも「幼児期の言語教育が人間の知能を決定する働きを有つ」といふ事を証明したものと言ふことが出来ると思ふ。

また、アメリカで天才学者といふ評判のあった、今日のサイバネチックの基礎を作ったと言はれるノバート・ウィナー博士も、一九一五年に十八歳で博士号を獲得してゐるが、大学に入学したのはやはり十歳の時であった。

彼の父はハーバード大学の教授で、今、世界にハーバード大学にたゞ一冊しかないといふ『カール・ヴィッテの教育』といふ本を読んで、そこに述べられてゐる教育法を、その通り忠実に実践した結果さうなった、といふことである。

ハーバード大学の教授の息子たちの中にはこの本を忠実に実践する者があって、さういふ教育で育った子供たちの中には、十歳で大学入試に合格する者がよくあると言ふ。その教育法の特徴は、「生れた次の日から始めなければいけないといふ“言葉の教育”に在る。